

平成30年度 看護学部2学年シラバス（前期）

<前期>

英語Ⅱ 前期A	…P2～7
〃 前期B	…P8～13
母性看護学	…P14～20
生体防御学	…P21～25
病態栄養学	…P26～31
微生物学	…P32～37
病理学	…P38～42
看護実践を支える看護技術とアセスメントⅡ	…P43～45
看護倫理学	…P49～54
家族の理解	…P55～60
地域の理解（地域看護学概論）	…P61～67
疫学	…P68～74
成長発達に合わせた健康の維持・増進に関する看護Ⅰ	…P75～81
慢性疾患をもつ人の看護	…P82～89
基礎看護学実習Ⅰ	…P90～96

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）：英語2（English 2）前期Aグループ

教員名：田中 明夫

開講年次：2年次，学 期：2018度 前期，必修／選択：必修

授業形態：演習，単位数：2単位 ，時間数：60時間

概要：看護・医療の分野で用いられる英語を理解し、使えるようになるために必要な基礎的英語技能を養います。看護・医療に関するニュース等を教材として用い、リスニング、シャドーイング、リーディングと必要な語彙と表現の整理と習得が授業の中心になります。

- 学習目標：1) 看護や医療に関するニュースを聞き、要旨を聞き取ることができる。
2) 看護や医療で用いられる基本的表現や語彙を正確に理解することができる。
3) 看護や医療に関して書かれた英文を正確に読み取ることができる。
4) 看護や医療で用いられる語彙を正しく発音することができる。
5) 英文を正しいイントネーション、ストレス、ピッチで発音することができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位

				認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	
2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—
				修得の機会がない

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：第1回目の授業で指示します。

参考書：『ウィズダム英和辞典』三省堂

『ジーニアス英和辞典』大修館書店

『リーダーズ英和辞典』研究社

Longman Dictionary of Contemporary English LONGMAN

Oxford Advanced Learner's Dictionary Oxford University Press

成績評価方法：小テスト、期末試験及び授業への参加度・貢献度を総合して評価します。

その他（メッセージ等）：初めて目にする語彙や表現が多く、事前に自分で調べなければな

らない事項が多くなると思います。必ず予習をして、積極的に授業に取り組んでください。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	シャドーイングの基礎	シャドーイング
第2回	看護・医療に関するニュース(1)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第3回	看護・医療に関するニュース(2)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第4回	看護・医療に関するニュース(3)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第5回	看護・医療に関するニュース(4)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第6回	看護・医療に関するニュース(5)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第7回	看護・医療に関するニュース(6)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第8回	看護・医療に関するニュース(7)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第9回	看護・医療に関するニュース(8)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第10回	看護・医療に関するニュース(9)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第11回	看護・医療に関するニュース(10)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第12回	看護・医療に関するニュース(11)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第13回	看護・医療に関するニュース(12)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第14回	看護・医療に関するニュース(13)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第15回	まとめ	

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）：英語 2 前期 B グループ (English 2)

教員名：中山 仁

開講年次：2年次，学 期：2018年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：60時間

概要：医療英語に関する記事などを読んで、看護・医療の分野で使われる英語の語彙や表現について学ぶ。授業では、(1)医療に関連する語彙・表現を覚える演習、(2)ニュースなどのリスニング・リーディングを通して、内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、(3)英文の内容を通して、最近の医療事情について理解を深める。

学習目標：1)基本的な医学用語を正しく発音し、その意味が理解できる。

2)習得した医学用語に基づいて、派生語や類義語の発音・意味を理解できる。

3)医療英語に関する記事のキーワードを読み取ることができる。

4)英語の文法と文章構成のパターンに基づいて、英文を正確に読み取ることができる。

5)英文を問題意識を持って読むことができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでの コミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：教室で指示する。

参考書：1) 一般語でより豊富な語彙を求める場合：『リーダーズ英和辞典』（研究社）

2) 専門用語の理解のために：『ステッドマン医学大辞典』（メジカルビュー社）
 成績評価方法：演習点、定期試験および授業の準備状況、授業への参加度・貢献度等を総合して評価する。

その他（メッセージ等）：読む英文の量が増え、専門性が高くなります。しっかりと準備を

して授業に臨んで下さい。医学用語の独特の発音とともにたくさんの語を覚え、英語を通して医療の知識や関心がさらに高まることを期待しています。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	Course Overview	Warm-up Exercises
第2回	医療・看護に関する記事 (1)	リスニング・リーディング・発音練習
第3回	医療・看護に関する記事 (2)	リスニング・リーディング・発音練習
第4回	医療・看護に関する記事 (3)	リスニング・リーディング・発音練習
第5回	医療・看護に関する記事 (4)	リスニング・リーディング・発音練習
第6回	医療・看護に関する記事 (5)	リスニング・リーディング・発音練習
第7回	医療・看護に関する記事 (6)	リスニング・リーディング・発音練習
第8回	医療・看護に関する記事 (7)	リスニング・リーディング・発音練習
第9回	医療・看護に関する記事 (8)	リスニング・リーディング・発音練習
第10回	医療・看護に関する記事 (9)	リスニング・リーディング・発音練習
第11回	医療・看護に関する記事 (10)	リスニング・リーディング・発音練習
第12回	医療・看護に関する記事 (11)	リスニング・リーディング・発音練習
第13回	医療・看護に関する記事 (12)	リスニング・リーディング・発音練習
第14回	医療・看護に関する記事 (13)	リスニング・リーディング・発音練習
第15回	Review Quiz	まとめ

区分名：看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）：母性看護学 Maternity Nursing

教員名：太田操、渡邊一代、渡邊まどか、非常勤講師

開講年次：2年次，学 期：2018年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義、演習 ，単位数：単位 3.0，時間数：60 時間

概要：

子どもの誕生に伴い家族の関係が変化し、それぞれの役割に移行していく周産期に焦点を当て学習する。マタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期・胎児期および新生児期）にある対象の身体的・心理的・社会的変化の特性を理解し、援助の視点と方法について学習する。また、女性のライフステージにおける発達課題や健康の諸問題を通して、母性としての機能が健全に発揮できるような援助の方法を学習する。

学習目標：

一般目標

1. 母性看護学の対象の理解を通して、母性看護学の意義・役割を学び、母性看護に関して関心を高める。
2. 母性の対象者に関心を持ち、母性機能を発揮できるための対象のニーズに応じた看護を考える。

行動目標

1. 母性の概念および母性看護の意義と役割について説明できる。
2. マタニティサイクル（妊娠期・胎児期、分娩期、産褥期・新生児期）にある対象の身体的変化、心理・社会的変化を説明できる。
3. マタニティサイクルにある対象の健康状態に影響を及ぼす要因を説明できる。
4. ウェルネス看護診断の考え方を説明できる。
5. ウェルネス看護診断に基づいて、対象の健康状態をアセスメントできる。
6. アセスメントに基づいて、対象のよりよい健康を保持・増進するための看護を説明できる。
7. マタニティサイクルにある対象がそれぞれの役割を遂行できる看護を考えることができる。
8. マタニティサイクルの異常について説明できる。
9. ハイリスク妊産婦のニーズと看護について説明できる。
10. 女性のライフサイクルにおける対象のニーズに合わせた看護を説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職者としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	○	模擬的な場 に知識を応

	もつ看護専門職者	② 倫理性を高める科目		用できることが単位認定の要件である
		③ 論理的思考能力を高める科目		
		④ 表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	① 社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		② 人間の理解を深める科目		
		③ 人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④ 看護の基本となる科目		
		⑤ 看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	① 看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		② 看護の実践		
		③ 看護を統合する科目		
5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。				
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	① 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		② 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③ 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：有森直子編：プリンシプルを修得し女性・家族に寄り添い健康を支える 母性看護学Ⅰ概論，医歯薬出版，2015.

有森直子編：アセスメントスキルを修得し質の高い周産期ケアを追求する 母性看護学Ⅱ周産期各論，医歯薬出版，2015.

参考図書：太田操編著：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版，医歯薬出版，2017.

成績評価方法：試験、レポート、平常点

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1～2回	マタニティサイクル	妊娠期・胎児期の看護
第3～4回	母性看護概論	母性看護の概念、意義、役割、ウェルネス看護診断 母性看護の変遷と動向
第5～6回	マタニティサイクル	妊娠期・胎児期の看護
第7～8回	マタニティサイクル	妊娠期・胎児期の看護
第9～10回	マタニティサイクル	分娩期の看護
第11～12回	マタニティサイクル	分娩期の看護
第13～14回	マタニティサイクル	新生児期の看護
第15～16回	マタニティサイクル	新生児期の看護
第17～18回	ライフサイクルにおける母性看護	セクシュアリティと看護 女性のライフサイクルと看護
第19～20回	マタニティサイクル	産褥期の看護
第21～22回	マタニティサイクル	産褥期の看護
第23～24回	マタニティサイクル	産褥期の看護
第25回	マタニティサイクル	産褥期の看護
第26～28回	妊娠期・分娩期・産褥	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の異常

	期・新生児期の異常	
第 29～30 回	ハイリスク妊産婦の 看護	ハイリスク妊産婦の定義、支援体制 マタニティサイクルの異常の看護

区分名：

科目名（英語名称含む）：生体防御学（ ）

教員名： 本多たかし

開講年次：2年次，学 期：2018年度 前期 ，必修

授業形態：講義 ，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：疾患の成り立つ背景と、それに対する人体の防御システムを理解する。

学習目標：

- ① 外因とは何かを理解する。
- ② 皮膚の構造と機能を理解する。
- ③ 免疫系の構造と機能を理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェSSIONAL			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。

2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。	
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。	

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目		
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目		
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。
6. 地域社会への貢献			
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>			
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。
7. 看護学発展への貢献			
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。			
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。

テキスト：特に指定しない。講義資料を Web で提示する。

参考書：講義中に随時提示する。

成績評価方法：試験、レポートの等分評価

その他（メッセージ等）：理由の如何を問わず、欠席は認めない。欠席した場合には教員に報告し、その指示に従うこと。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	物理的要因	外力による損傷、温熱による損傷、圧力による損傷
第2回	化学的要因	化学物質、医薬品、医薬用外品、薬害
第3回	生物学的要因	アレルギー、地域に特異的な感染症(野兔病)
第4回	環境変化による疾患	大気汚染、自然災害
第5回	皮膚	表皮、真皮、皮下組織、爪、毛
第6回	免疫組織	リンパ組織、リンパ節、骨髄、扁桃、虫垂
第7回	免疫理論	抗体、抗原抗体反応、移植免疫
第8回	放射線医学概論	放射線の基礎知識

区分名：人間の身体機能と病態を理解する

科目名（英語名称含む）：病態栄養学（Clinical nutrition）

教員名：中村啓子

開講年次：2年次，学 期：2018年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義・演習，単位数：2.0単位，時間数：45時間

概要：人間にとっての栄養の意義を理解し、人間の成長発育や生命維持に必要な各種栄養素の種類と代謝について学習する。また、各種の疾患や病態が、どのような食事や栄養補給が病態と栄養状態を改善するために有効であるか治療食について理解する。

学習目標：人間の成長、生命維持活動に関与する各種栄養素の種類と代謝やライフステージによる栄養状態の変化と食事・栄養管理について、疾病や障害時の栄養療法について理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃

		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	〃
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての		

			責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	〃
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない

		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：看護栄養学（医歯薬出版）

参考書：

成績評価方法：筆記試験（50%）、レポート（40%）、出席状況（10%）で評価する。詳しくは第1回目の授業で示す。

その他（メッセージ等）：看護学教育における病態栄養学は生きることを支える看護の基本への教育といえるでしょう。“その人らしさ”を損なうことなく援助できるような知識を身に付けてください。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	疾病と栄養	“その人らしい食生活”への援助
第2回	ライフサイクルと栄養 I	ライフサイクルと食のかかわり
第3回	ライフサイクルと栄養 II	人間の成長過程における食生活・栄養管理

	養Ⅱ	
第4回	ライフサイクルと栄養Ⅲ	人間の成長過程における食生活・栄養管理
第5回	食べる行動から始まる栄養	食べる行動とは
第6回	とり込まれた食物のゆくえ	消化から始まる栄養
第7回	病態と栄養	食生活の自立への援助 疾病時の栄養方法
第8回	疾病と栄養	代謝疾患の栄養療法
第9回	疾病と栄養	その他疾患別栄養療法
第10回	QOLと食生活	食の精神的側面からの考察
第11回	人間と食文化	食の文化的側面からの考察
第12回	セルフケアと食事	食行動を促す患者教育
第13回	セルフケアと食	食生活の自立への援助
第14回	現代人の食生活の課題	現代人の食生活から
第15回	健康・栄養状態の評価	栄養アセスメント
第16回	食事療法の実際（常食）	入院時の一般成人食について（実習）
第17回	食事療法の実際（軟食）	軟食の調理形態について（実習）
第18回	減塩食について	減塩方法について（実習）
第19回	エネルギーコントロール食	糖尿病の交換表を活用して（実習）
第20回	たんぱく質コントロール食	腎臓病の交換表を活用して（実習）
第21回	脂質コントロール食	食材の選択、調理方法について（実習）
第22回	妊娠時の食事	母性の栄養管理について（実習）
第23回	離乳食、幼児食	離乳、幼児期の栄養管理について（実習）
第24回	嚥下困難食	嚥下困難者の栄養管理について（実習）

区分名： 人間の身体機能と病態を理解する

科目名（英語名称含む）： 微生物学（Microbiology）

教員名： 錫谷達夫

開講年次： 2年次，学 期： 2018年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態： 講義実習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要： 看護の現場では感染症患者が多数存在し、感染を防ぎながら看護する技術は必須である。また、高度な医療を受ける患者の多くは免疫能が低下しており、我々が持っている常在菌ですら死に至る感染症の原因となる。本科目では、病原微生物の性質や感染症の病態生理を学び、看護実践の基礎となる感染制御を理解する。

- 学習目標： 1) 各病原微生物の性質と感染経路、病原性を概説できる。
2) 感染症の感染経路を概説し、感染経路別の予防策を説明できる。
3) 予防接種の種類と接種の法的な区分を概説できる。
4) 滅菌と消毒の原理を理解し、病院で行われている滅菌・消毒の実際を説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	—	
		②	看護の実践		

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-	
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： ナースのための微生物学

参考書： 戸田細菌学

成績評価方法： 試験、出席、レポートを総合的に評価する。

その他（メッセージ等）： 実習は2度と経験ができないので、出席を必須とする。以下の授業内容に教科書の関連するページ数を記載するので、予習してくること。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	微生物学総論	微生物学の歴史（第1章） 微生物とは（第2章）；細菌、真菌、ウイルス 感染とは（第4章）

第2回	微生物学総論	伝播経路（第4章） 感染症の予防とコントロール（第6章）
第3回	細菌学各論	p. 94-114
第4回	細菌学各論	p. 115-139
第5回	細菌学実習	
第6回	細菌学実習	
第7回	ウイルス学総論、各論	p. 141-150
第8回	ウイルス学各論	p. 150-171

区分名：

科目名（英語名称含む）：病理学（ Pathology ）

教員名： 本多たかし

開講年次：2年次，学 期：2018年度 前期 ，必修

授業形態：講義・演習 ，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：疾患の成り立つ背景と、それに対する人体の反応を理解する。

学習目標：

- ④ 病理変化とは何かを理解する。
- ⑤ 基本的な病態の特徴を理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	
2. 生涯学習				

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。	
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。	

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。
6. 地域社会への貢献			
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>			
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。
7. 看護学発展への貢献			
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。			
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。

テキスト：特に指定しない。講義資料を Web で提示する。

参考書：講義中に随時提示する。

成績評価方法：試験、レポートの等分評価

その他（メッセージ等）：理由の如何を問わず、欠席は認めない。欠席した場合には教員に報告し、その指示に従うこと。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	退行性変化	萎縮、変性、壊死、アポトーシス、個体死
第2回	進行性変化	肥大、過形成、肉芽組織、修復、瘢痕、治癒
第3回	循環障害	出血、虚血、凝固異常、浮腫、腔水症、心不全
第4回	代謝障害	糖原病、脂質代謝異常、糖尿病、アミロイドーシス
第5回	免疫異常	アレルギー、後天性免疫不全症候群
第6回	炎症	急性炎症、慢性特異性炎症
第7回	腫瘍	発癌機序、良性腫瘍、悪性腫瘍、癌腫、肉腫
第8回	先天異常	催奇形因子、臨界期、単体奇形、二重体

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：看護実践を支える看護技術とアセスメントⅡ（Nursing skills and assessment as the fundamental nursing practice Ⅱ）

教員名：丸山育子 川島理恵 田中啓子 林紋美

開講年次：2年次，学 期：2018年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：演習 ，単位数：2単位 ，時間数：60時間

概要：看護学は、実践の学問です。授業は病床を想定した実習室において行い、学生が互いに患者役看護者役を体験して、看護技術の基本を学びます。看護者は看護技術の提供において、様々な視点から対象を把握し、看護の必要性をアセスメントし、個別性を踏まえながら方法を考えます。この一連のプロセスでは、客観的な根拠(evidence)に基づいて考えることが大切です。「何故そのように行うか」と「どのように行うか」の双方に着目しながら複数の教員と共に看護の基本を学びます。本科目においては、人が生活を営む上で不可欠な活動、食・栄養、排泄のアセスメントと基本となる技術と検査を受ける対象に必要な援助について学びます。

学習目標：

一般目標

対象の活動や食・栄養、排泄に関する対象の状態を適切にアセスメントするための基本的な知識や技術を獲得する。また、検査を受ける対象の援助で求められる看護師の役割を理解するとともに、看護師が実施する検査の範囲とその基礎知識と技術の一部を獲得する。

行動目標

- 1) 対象の活動、食・栄養、排泄の状態をアセスメントし、技術を提供する必要が理解できる。
- 2) 対象の活動、食・栄養、排泄の状態をアセスメントするための基本的知識を獲得する。
- 3) 活動、食・栄養、排泄の援助における基礎的看護技術の方法を獲得する。
- 4) 検査を受ける対象を援助における看護師の役割および看護師が実施する検査の範囲を理解する。
- 5) 看護師が実施する検査の技術の一部を獲得する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。	

1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場で知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない。授業で資料を配布します。

参考書：適宜紹介する

成績評価方法：筆記試験、実技試験、授業への取組みで総合的に評価します。

その他（メッセージ等）：看護実践の場で出会う方々に、看護を提供することになります。看護は人の生活を援助することです。そのためには、人の生活を援助するための基本的な知識と技術を身に付けておくことが重要になります。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	活動と運動(1)	人間の活動の特徴 ボディメカにクス 体位変換1
第2回	活動と運動(2)	筋運動と神経調節 体位変換2
第3回	活動と運動(3)	意識的な動き 体位変換3
第4回	活動と運動(4)	意識的な動き 体位変換4
第5回	活動と運動(5)	無意識的な動き 移送 車椅子など
第6回	活動と運動(6)	無意識的な動き MMT
第7回	食と栄養(1)	摂食嚥下機能
第8回	食と栄養(2)	摂食嚥下機能障害がある方への援助 経管栄養法
第9回	食と栄養(3)	栄養状態アセスメント
第10回	排泄(1)	排尿 排便 排泄物の観察 腹部マッサージ
第11回	排泄(2)	排便機能に障害がある方への援助 床上排泄
第12回	排泄(3)	排尿機能に障害がある方への援助 間欠的導尿
第13回	検査(1)	臨床検査の目的と種類
第14回	検査(2)	静脈血採血
第15回	検査(3)	静脈血採血

区分名：

科目名（英語名称含む）：看護倫理学（Nursing ethics）

教員名：佐藤 博子

開講年次：2年次，学 期：2018年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：治療やケアの決定をめぐる、医療サービスを提供する側や受ける側、その周辺の関係者にはさまざまな問題や葛藤が生じる。このような状況に際して看護の提供者として、倫理的感受性を滋養することを目標とし、具体的な事例について検討し、倫理的に判断し、どのように取り組めばよいのか解決法を学習する。

学習目標：1) 看護実践における倫理の重要性について説明できる。

2) 専門職の看護倫理綱領の意義と内容について説明できる。

3) 倫理問題解決のための方法について説明できる。

4) 看護専門職が持つべき倫理的感受性を高め、責務を追及しようとする姿勢について理解できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。		〃

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	－	習得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	—	習得の機会がない
		②	看護の実践		

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	習得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	習得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	習得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 松葉祥一 著者代表 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院

参考書： 開講時に提示する

成績評価方法： 授業への参加度とレポート、試験により評価する。

その他（メッセージ等）： 看護の専門性と倫理的課題についての理解を深め、専門職としての倫理的態度について学びましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	看護倫理についての基礎知識	看護倫理とは、看護倫理の必要性
第2回	専門職としての看護倫理綱領	日本看護協会の倫理綱領を読み解く 自己学習とグループワーク
第3回	専門職としての看護倫理綱領	日本看護協会の倫理綱領を読み解く

		グループワーク発表
第4回	看護の場面における倫理的ジレンマ	倫理的分析と意思決定モデル
第5回	インフォームド・コンセントと看護師の役割	インフォームド・コンセントとは 看護師の役割について
第6回	看護研究における倫理	看護研究における倫理、倫理審査
第7回	看護倫理問題の事例検討	模擬事例について検討
第8回	まとめ	

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：家族の理解（Understanding of the family）

教員名：畠山 とも子

開講年次：2年次，学 期：2017年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：30時間

概要：

- ・家族を一つの単位として捉え、援助する重要性を学ぶ。
- ・家族看護学の基盤となる理論を学び、アセスメントに活用できる。

学習目標：

〈一般目標〉

- （1）家族看護とは何か説明できる。
- （2）家族発達理論を使ってアセスメントできる。
- （3）家族ストレス対処理論を使ってアセスメントできる。
- （4）家族システム理論を使ってアセスメントできる。
- （5）円環的な思考でシステムが理解できる。

〈行動目標〉

- （1）自らの家族観を明確にできる。
- （2）自らの家族観が形成された影響を振り返ることができる。
- （3）多様な家族のあり方を理解できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	〃
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	〃
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：臨床での家族支援3 日本看護協会出版会 は後期でも使います。

参考書：

- ・臨床での家族支援1・2・3 日本看護協会出版会
- ・吉川悟：家族療法 - システムズアプローチの〈ものの見方〉，ミネルヴァ書房
- ・吉川悟，東豊：システムズアプローチによる家族療法のすすめ方，ミネルヴァ書房

成績評価方法：

1. 課題レポート

私の価値観・私の家族の価値観に気付く。

(1) 私の家族へのインタビュー

(2) (1)の感想

(3) 私の家族のジェノグラム

2. 最終レポート

「家族の理解」の学び 2000字程度

3. 出席状況

その他（メッセージ等）：

家族看護はものの見方の転換です。発想を広げましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	家族看護とは何か。	家族看護とは何か。
第2回	家族看護の基盤となる理論	家族システム理論 家族ストレス対処理論 家族発達理論
第3回	私の価値観を振り返る	演習
第4回	私の家族を理解する	演習
第5回	アセスメント	演習
第6回	アセスメント	演習
第7回	アセスメント	演習
第8回	アセスメント	演習
第9回	アセスメント	演習
第10回	アセスメント	演習
第11回	アセスメント	発表・質疑応答
第12回	アセスメント	発表・質疑応答
第13回	アセスメント	発表・質疑応答
第14回	アセスメント	発表・質疑応答
第15回	アセスメント	発表・質疑応答

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：地域の理解

教員名：高瀬佳苗

開講年次：2年次，学 期：2018年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：この科目では、地域の人々の生活、地域の文化・環境、地域社会の構造について学習し、看護の対象を地域全体として捉える方法を学びます。また、地域の健康に関する情報を集める方法、地域の人々の健康に対する考え方やニーズを把握する方法、そこから地域の課題を導く方法、これらと関連する地域看護学領域で活用できる理論やモデルについて学習します。そして、地域看護の活動分野に応じた特性を理解し、看護活動の展開について学びます。

学習目標(一般)： 1) 地域看護の対象、目的、地域看護活動の基盤となる考え方について知る。
2) 行政、学校、産業、そして在宅などの地域を基盤とする地域看護活動について学ぶ。
3) 地域看護学領域で用いられる理論やモデルを知り、地域看護活動の場所における活用について理解する。

学習目標(行動)： 1) 地域看護の定義が述べられる。
2) 地域看護に関連する主要な概念について説明できる。
3) 地域看護学の対象を述べることができる。
4) 地域看護活動の場所について列挙することができる。
5) 活動場所の特性に応じた地域看護活動を説明できる。
6) 地域看護活動における理論・モデルの有用性について述べられる。
7) 地域看護学の今後の課題について述べられる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/ 礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 荒賀直子・後閑容子編. 公衆衛生看護学 jp. インターメディカル. 最新版

参考書： 木下由美子編. エッセンシャル地域看護学. 医歯薬出版. 最新版
 宮崎美砂子他編. 最新地域看護学総論. 日本看護協会出版会. 最新版
 宮崎美砂子他編. 最新地域看護学各論 1. 日本看護協会出版会. 最新版
 宮崎美砂子他編. 最新地域看護学各論 2. 日本看護協会出版会. 最新版
 奥山則子他. 地域看護学概論, 標準保健師講座第 1 巻. 医学書院. 最新版
 中山裕美子他. 地域看護技術, 標準保健師講座第 2 巻. 医学書院. 最新版
 中谷芳美他. 対象別地域看護学活動, 標準保健師講座第 3 巻. 医学書院. 最新版

成績評価方法： 出席および授業への参加態度 20%(授業中の不要な私語、携帯電話等の操作は減点になります)、定期試験 80%

その他 (メッセージ等)：看護の対象が個人だけではなく、集団や一定の広がりのある地域全体だという点に特徴がありますので、社会に関する情報にも関心を寄せると学びが深まります。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第 1 回	地域看護学とは	定義、目的、主要な概念
第 2 回	地域を基盤とする考え方: 公衆衛生学の視点	公衆衛生、生活と環境
第 3 回	地域看護活動の展開 1[健康問題]	個人と集団、健康上の問題
第 4 回	地域看護活動の展開 2[看護過程と地域診断]	プロセス、看護の診断
第 5 回	地域看護の活動場所と看護活動 1[市町村]	市町村の保健師活動、実際
第 6 回	地域看護の活動場所と看護活動 2[保健所]	都道府県の保健所、保健師

第7回	地域看護の活動場所と看護活動 3[中核市]	中核市の保健師活動
第8回	地域看護の活動場所と看護活動 4[学校・事業所]	養護教諭、産業保健師
第9回	地域看護活動の展開 3[地域看護の展開方法]	地域看護の方法
第10回	地域看護活動の展開 4[地域を知る, 実習の準備]	地域を知るとは
第11回	地域看護活動に活用できる理論とモデル	看護理論、看護モデル
第12回	地域包括ケアシステムと多職種連携	ケアシステム、関係職種
第13回	地域看護の活動場所と看護活動 5[在宅看護]	在宅療養、訪問看護
第14回	災害看護: 大規模災害後から復興期の保健師活動 の実際	災害看護、保健師活動
第15回	地域の理解(地域看護学概論)のまとめ	地域看護の歴史、法の変遷

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：疫学（Epidemiology）

教員名：後藤あや、松井史郎

開講年次：2年次，学期：2018年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義，単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：

疫学の講義は、統計学（1年前期）および情報学演習（1年後期）とシリーズになっており、この3つの講義と演習を通して、エビデンスに基づく保健医療が提供できる知識と技術が身につくことを目指します。

エビデンスとは、日本語にすると「根拠」です。保健医療サービスは、その効果が科学的に明らかであるもの、つまりエビデンスが検証されたものを提供することが望まれます。ここでエビデンスとは、数値だけではなく、人々の声（文章）のデータも含まれます。

疫学の講義では、統計学で学んだことを復習した上で、データを収集する調査デザインの特徴、交絡とバイアス、さらには論文に提示された結果を読み取るためのより発展的な知識を学びます。基礎的な机上の勉強と捉えられがちですが、疫学は非常に実用的であり、保健医療の実務で必ず使う実践技術です。

学習目標：

一般目標

エビデンスに基づく保健医療が提供できるようになるために、データを収集、分析、提示、読み取るための知識と技術を身につける。

具体的目標

1. 疫学指標について説明できる。
2. 疫学デザイン（生態学的研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究、介入研究、スクリーニング）の特徴について説明できる。
3. 交絡とバイアスについて説明できる。
4. 臨床疫学で得られたエビデンスを理解できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	◎	看護の場に知識を応用

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		できることが単位認定の要件である
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島で起こった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

日本疫学会（監修）. はじめて学ぶやさしい疫学. 南江堂.

参考書：

横川博英（監）、藤林和俊（著）. 看護研究をはじめのための統計と臨床疫学. 学研メディカル秀潤社.

成績評価方法：

試験（70%）と出席・提出物（30%）により総合的に評価します。

その他（メッセージ等）：

シリーズとしている3つの講義・演習どれにおいても、グループ演習への積極的な参加を求めます。講義を聞くだけでなく、自分で考え、使うことで、知識と技術は定着します。

特別講師（予定）：川井巧（大原総合病院）、郡山千早（鹿児島大学）、横川博英（順天堂大学）

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
1, 2, 3	統計学の復習、疫学指標、因果関係 演習：統計の復習問題、因果関係の推測	有病率、罹患率、相対危険、寄与危険
4, 5	生態学研究、横断研究 演習：事例研究の読み取り	研究の倫理、生態学的研究、横断研究、年齢調整、交絡
6, 7	症例対照研究、コホート研究 演習：事例研究の読み取り	症例対照研究、コホート研究、バイアス
8, 9	介入研究、スクリーニング 演習：事例研究の読み取り	無作為割り付け、マスキング、感度、特異度、陽性反応的中率、信頼性、妥当性
10, 11, 12, 13	臨床疫学の基本と実例 演習：得られたエビデンスの理解と実	臨床疫学、EBM、ヘルスプロモーション

	践	
14	県民健康調査のデータから実例を学ぶ	
15	総復習	

区分名：看護実践の基礎となる科目

科目名（英語名称含む）：成長発達に合わせた健康の維持・増進に関する看護1
（ ）

教員名： 佐藤利憲 脇屋友美子 和田久美子 坂本祐子

開講年次：2年次，学 期：2018年度 前期 ，必修／選択：必修選択

授業形態：講義，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：

新生児期から老年期までの発達段階における、人の成長・発達、成熟と老化のプロセスについて、身体的・心理社会的な観点からの捉え方とその特徴を学ぶ。また、各ライフステージにおける発達課題と健康上の課題について理解を深め、健康の維持増進を考える上で基盤となる概念・理論について学ぶ。

学習目標：1. ライフステージにおける発達段階とは何かを説明できる。

2. 心の構造と働きについて、イド・自我・超自我という用語を用いて説明できる。

3. ストレス・コーピング・危機について説明できる。

4. 小児期における身体的・心理的・社会的観点からみた特徴および健康上の課題について述べられる。

5. 成人期における身体的・心理的・社会的観点からみた特徴および健康上の課題について述べられる。

6. 老年期における身体的・心理的・社会的観点からみた特徴および健康上の課題について述べられる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		

2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	コミュニケーション	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		定の要件である
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		定の要件である
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 特に指定しない

参考書： 適宜提示する

成績評価方法：筆記試験にて評価する

その他（メッセージ等）：生まれてからから死を迎えるまでに、人間はさまざまな体験し、成長・発達していきます。各ライフステージにおける発達課題と健康上の課題について理解を深め、健康の維持増進を考えていきましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	人間の成長と発達（1）	ライフステージ, 発達課題
第2回	人間の成長と発達（2）	各発達段階にける発達課題
第3回	心のしくみと成長・発達（1）	精神力動論, イド・自我・超自我
第4回	心のしくみと成長・発達（2）	自我の発達, 防衛機制
第5回	ストレス・コーピング・危機（1）	人間の危機状態について、危機理論を用いて学習する。危機回避について、看護の視点から考える。
第6回	ストレス・コーピング・危機（2）	ストレスとその対処について、ストレス・コーピング理論を用いて学習する。ストレス・コーピングと看護について考える。
第7回	小児期（新生児期・乳児期）における特徴と健康上の課題（1）	形態・機能的側面の成長発達, 愛着, 認知発達
第8回	小児期（幼児期）における特徴と健康上の課題（2）	形態・機能的側面の成長発達, 認知・自我の発達, 社会性の発達
	小児期（学童期・思春期）における特徴と健康上の課題（1）	形態・機能的側面の成長発達, 認知発達, 第二性徴, 自己同一性, 対人関係の変化
	成人期における特徴と健康上の課題（1）	成人期における、人間・健康・環境の捉え方について日本人の法的側面・公的調査データをもとに学習する。
	成人期における特徴と健康上の課題（2）	健康の維持・増進・疾病の予防・生活習慣について自己の周囲・環境を通して考える。
	成人期における特徴と健康上の課題（3）	成人期における健康上の課題について、事例を通して看護の視点から考える。

	老年期における特徴と 健康上の課題 (1)	老いを生きる, 衰退現象, 成熟現象, 高齢者の QOL
	老年期における特徴と 健康上の課題 (2)	身体的・生理的老化, 老性の自覚, 老いの受容, 役割機能の変化
	老年期における特徴と 健康上の課題 (3)	高齢者医療・保健・福祉対策, 高齢社会の課題, 権利擁護

区分名： 看護実践の基盤となる科目

科目名（英語名称含む）：慢性疾患をもつ人の看護【看護2】（ ）

教員名： 山手美和、井上水絵、横山郁美 他

開講年次：2年次，学 期：2017年度 前期～後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義・演習，単位数：3単位 ， 時間数：60時間

概要：成人期にある対象の特徴を踏まえ、個人の健康レベルに応じた健康の維持増進、健康障害からの回復に必要な看護援助を学ぶ。

学習目標：

（一般目標）

1. 慢性で長期の経過をたどる対象者の健康障害と看護援助方法について学習する。

（行動目標）

1. 慢性期的な健康障害について理解し、長期的な経過の中で慢性疾患を持つ人とその家族に及ぼす身体的・心理的・社会的影響について説明できる。
2. 慢性看護に適用できる概念や理論について理解することができる。
3. 慢性疾患を持つ人とその家族のセルフケアが生活に与える影響について説明できる。
4. 慢性疾患を持つ人とその家族のセルフケア能力を向上させる看護実践及び必要な支援について説明できる。
5. グループワークを通して、慢性疾患を持つ人への看護を実践するために必要な知識を整理し、他者と学習が共有できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：鈴木久美，他編集：看護学テキスト NiCE 成人看護学 第2版 慢性期看護 病
 気とともに生活する人を支える．南江堂．2015

参考書：鈴木志津枝、藤田佐和 編集：慢性期看護論 第2版．ヌーベルヒロカワ．2009

その他、必要に応じて講義の中で紹介する

成績評価方法：出席、課題、試験により総合的に判断する

その他（メッセージ等）：慢性疾患の多くは、中・長期的に療養行動・症状マネジメントを
 行っていくことが重要です。病気とともに生きる生活していく患者とその家族にと

って、病気とともに生きること、日常生活の中に療養行動を組み込みながら、その人らしい生活・人生を送るとは、どういうことなのか、また、そのことを支援していく援助方法について学習します。

*講義内容・予定は変更することがあります。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	成人期にある慢性疾患をもつ人の看護の特徴1	慢性疾患の概念・動向、慢性疾患をもつ人への看護の特徴・方法、看護師の役割、対象者を捉える理論
第2回	成人期にある慢性疾患をもつ人の看護の特徴2	慢性疾患の概念・動向、慢性疾患をもつ人への看護の特徴・方法、看護師の役割、対象者を捉える理論
第3回	代謝機能障害をもつ人への看護1	糖尿病患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護、インスリン療法を受ける人への看護
第4回	代謝機能障害をもつ人への看護2	脂質異常症患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護
第5回	消化機能障害を持つ人への看護1	消化器系疾患の身体的、心理・社会的特徴及び看護(胃・十二指腸潰瘍、肝硬変、クローン病、潰瘍性大腸炎)
第6回	消化機能障害を持つ人への看護2	消化器系疾患の身体的、心理・社会的特徴及び看護(胃・十二指腸潰瘍、肝硬変、クローン病、潰瘍性大腸炎)
第7回	呼吸機能障害をもつ人の看護1	慢性呼吸不全患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護(気管支喘息、COPD、肺がん)、酸素療法時の看護、禁煙指導
第8回	呼吸機能障害をもつ人の看護2	慢性呼吸不全患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護(気管支喘息、COPD、肺がん)、酸素療法時の看護、禁煙指導
第9回	がん患者へのケア1	がん看護概論：日本におけるがんの疫学的特徴、動向、対策
第10回	がん患者へのケア2	がん化学療法とその看護(曝露対策等含む)、外来化学療法とその看護、症状マネジメント、セルフケア支援
第11回	がん患者へのケア3	放射線療法、放射線療法中の患者の特徴、症状マネジメント、セルフケア支援
第12回	がん患者へのケア4	症状マネジメント及び緩和ケアが必要な人への看護、緩和ケアに関するチーム医療の実際
第13回	造血器疾患を持つ人への看護1	造血器疾患患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護 症状マネジメント、化学療法を受ける人への看護、精神的苦痛、ボディイメージの変化、骨髄移植、継続看護、生活指導

第14回	脳神経機能障害をもつ人の看護	進行性の脳神経変性疾患、パーキンソン病・脊髄小脳変性症、薬物療法、症状コントロール、リハビリテーション、医療連携、コミュニケーション障害、身体機能障害
第15回	感覚器系の障害をもつ人の看護	感覚器系の障害をもつ患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護
第16回	グループワークオリエンテーション	ケーススタディーオリエンテーション、事例紹介
第17回	循環機能障害をもつ人の看護1	慢性心不全患者の看護、ペースメーカー、症状コントロール、生活指導とセルフケア、心臓リハビリテーション
第18回	循環機能障害をもつ人の看護2	慢性心不全患者の看護、ペースメーカー、症状コントロール、生活指導とセルフケア、心臓リハビリテーション
第19回	内分泌機能障害をもつ人の看護	甲状腺機能障害患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護（甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症）
第20回	グループワーク	
第21回	運動障害を持つ人の看護	運動機能障害をもつ患者の身体的、心理、社会的特徴及び看護
第22回	グループワーク	
第23回	皮膚疾患をもつ人の看護	皮膚疾患患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護（難治性潰瘍）
第24回	免疫機能障害をもつ人の看護	全身性エリテマトーデス患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護
第25回	内部環境調節機能障害をもつ人の看護1	慢性腎不全患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護、人工透析を受ける人への看護（血液透析、腹膜透析）
第26回	内部環境調節機能障害をもつ人の看護2	慢性腎不全患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護、人工透析を受ける人への看護（血液透析、腹膜透析）
第27回	疾病管理に必要なセルフケア支援	セルフケア支援、患者支援
第28回	疾病管理に必要なセルフケア支援	セルフケア支援、患者支援
第29回	グループワーク発表	
第30回	グループワーク発表	

区分名： 看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）： 基礎看護学実習 I （ fundamental nursing clinical practicum I ）

教員名：川島理恵 木下美佐子 佐藤博子 堀内輝子 丸山育子 田中啓子 林紋美

開講年次：2年次，学 期：2018年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：実習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：45時間

概要:本実習は、健康問題を抱え、病院での治療を余儀なくされた方を受け持ち、4日間を通して対象を理解します。5日目は学内でカンファレンスを行い、意見交換を通して学びを深めます。実習を通して、対象に積極的な関心を向け、対象の生活や健康状態を理解することの大切さを学んでいきます。

学習目標：

- 1) 健康上の問題により入院が必要になった対象に積極的な関心を向けて、対象との間に関係性の形成をめざす。
- 2) 入院が対象の生活に及ぼす影響に着目しながら対象を理解する。
- 3) 保健医療チームの一員であることを自覚し、責任をもって行動する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		示せることが 単位認定の条件である
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	看護実践の場 で看護職としての態度、 習慣、価値観を示せることが 単位認定の条件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	看護実践の場 で看護職としての態度、習慣、 価値観を示せることが 単位認定の条件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と 自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会 はあるが、 単位認定に 関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会はない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の一部として実践できることが単位認定要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会はない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

参考書：

成績評価方法：

当該実習総時間数の 5分の4以上出席しなければ単位認定を受けることができない。

実習評価は実習内容・実習態度・記録を統合して行う。評価配点は実習要項に記載する。

その他（メッセージ等）：

健康障害を抱え、治療のために病院という特殊な環境での生活を余儀なくされる人々があります。病気を抱えること、病院での生活を送ること、検査や治療を受けることは、その人々の生活や健康にどのような影響を及ぼすのでしょうか。そして、看護職者は、それらの人々に対してどのような側面に関わる役割を持つのでしょうか。実習は他の授業形態以上に皆さんの積極的な姿勢が求められます。教員と共に看護について考えて行きましょう。

授業内容(学習項目)

1. 実習施設

- ①公立大学法人福島県立医科大学附属病院
- ②公益財団法人湯浅報恩会寿泉堂総合病院
- ③立藤田総合病院
- ④会医療法人秀公会あづま脳神経外科病院

2. 実習期間 平成 30 年 7 月 23 日(月)～27 日(金) *金曜日は学内にてまとめ

3. グループ編成：1 グループ 4 名程度とする。

4. 実習前オリエンテーション

実習の約 1 ヶ月前に 2 年生全員を対象にオリエンテーションを行い、実習目的や実習の展開方法、実習に際しての留意点などの説明を行う。また、実習前週には、グループ毎にオリエンテーションを行い、病棟の特徴や対象に関する説明を行う。

5. 実習期間中

実習時間は基本的に 8 時 30 分～16 時 30 分とするが、実習施設の状況に応じて開始時刻は変更となるため、オリエンテーションにてその詳細を把握すること。詳細は、実習要項に記載するが、学生はそれぞれ一人の対象を受け持ち、実習を展開する。また、日々、実習指導者や教員、グループメンバーと共にカンファランスを行い、学びを深める。

6. 個々のレポートを通しての学びの整理

実習と、実習後のカンファランスを踏まえながら、実習目的に沿って個々の学びを論理的に整理し、自己の課題を見出す。

7. 記録のまとめと提出

実習中は、日々の学びを指定の用紙にまとめる。他に、実習終了後に「実習を通しての学び」をまとめる。詳細は実習要項に記載する。